

閉会ご挨拶

常務理事の下野です。

本日は大変貴重なご講演と活発な意見交換をいただきました。誠にありがとうございました。

本日のセミナーを通して「グローバルサプライチェーンのグリーン化とデジタル化」という世界的にも関心の高いテーマに関する課題や取組についての知識が広がり、理解も進んだと思います。本日ご登壇いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

グローバルサプライチェーン全体を脱炭素化していくためには、海運と港湾の国際的な連携の取組が進んでいますが、アメリカのアマゾンといった世界的な大手荷主が2021年に「2040 年に海上輸送を脱炭素化する」という宣言を発表したことが大きな契機となったと伺っています。このように、いわゆるスコープ3の脱炭素化への要請は今後も益々強くなっていくと予想されます。

IMO では、今月の MEPC83で 2050 年カーボンニュートラルに向けた中期対策の条約改正案が承認されました。一方で、アメリカのトランプ政権はパリ協定から離脱するなどの政策転換を進めており、今後の動向が注目されますが、これまでの脱炭素化の動きが後退してはならないと考えています。

また、デジタル化についても貿易書類の電子化、自動運航船の社会実装に向けた取組などが進んでいますが、グリーン化あるいはデジタル化の中で海事人材の役割がどのように変質していくのか、また最後にも質問が出ましたが、巨額の投資が必要な中でどのような形で投資が回収され、あるいはどのように輸送価格等に反映されてい

くのか、といった事柄に関する一般の方々の関心が高いと感じています。

今回のセミナーではこういった点の議論は十分ではなかったかもしれませんが、「グリーン・デジタル SHIPPING コリドー」という取組について東アジアの先進的な国々の取組と日本における課題などが共有されたことは大きな意義があったのではないかと思います。

今後、本日のセミナーを契機として、海運・港湾・物流など、多くの方々の間で議論や取組が進むことを期待したいと思いますし、当センターとしても今後はレンジを広げて、幅広い関係者の意見や要望等も把握しつつ、調査研究を進めていきたいと考えております。

今後の海運と港湾の一層連携した取組と当センターの取組について期待していただければと思います。

本日は誠にありがとうございました。